

一 教学入門 ⑦ 宿命転換

※宿命転換について、空欄に適切な言葉を入れて次の文章を完成させなさい。

仏法では、今世で説明がつかない苦難の原因は（過去）世における行為、すなわち（宿業）の結果であると説きます。生命は（過去）世・現在世・（未来）世の三世にわたります。（過去）世の行為が因となって現在世の結果となり、現在世の行為が因となって（未来）世の果となるとみます。

過去からの苦しみから逃れられない他の宿命論に対して、宿命の転換を説くのが

（日蓮大聖人）の仏法です。あらゆる悪を生む根源の悪は法華経への誹謗、すなわち（謗法）であり、それゆえに正法流布を実践することによって（今）世において転換できます。広宣流布に戦うと必ず苦難に直面しますが、妙法流布の実践力によって本来の重い罪業を軽く受けて消滅させることができます。この法理が（転重軽受）です。御書には「（地獄）の苦（くるし）み（ぱっ）ときへて」と仰せです。

信心を貫く私たちは、仏法の正しさを証明するために、自ら願って業を背負って悪世に生まれてきました。これを（願兼於業）といいます。悪業で苦しむ衆生と同じく苦難を受けて苦難を乗り越える模範を示すとの（菩薩の誓願）です。

池田先生はこの法理を「（宿命）を（使命）に変える」と示しています。

宿業	今・現在	未来	過去	願兼於業	宿命	使命	地獄
菩薩の誓願	運命の定め	転重軽受	日蓮大聖人	釈尊	謗法	ぱっ	

※次の文章を読んで正しいものには○、間違っているものには×をつけなさい。

- （×）「人の衣服を奪えば餓鬼になる」など「常の因果」を教えるのが仏法である。
- （○）自身の胸中に仏界の太陽を現わせば過去世の重い罪業も霜露のごとく消える。
- （×）物事の原因を見つけれないのは自身の思索が不足しているからであり、すべての物事の原因は必ず今世の行動によって積まれている。
- （×）過去世からの悪業が重い場合は何度も生死を繰り返して清算するしかない。
- （○）未来世まで報いを受けるべき重い宿業を今世に軽く受けて滅することを転重軽受という。
- （×）過去世で境涯革命した人は、現在世に宿命を持たずに恵まれた環境に生まれてきている。
- （○）宿命を使命と変えて戦える人はすべて願兼於業の人である。
- （○）全てが自分の使命であると受け止めて前進し抜く人は宿命転換のゴールに向かうことができる。
- （×）重い宿業は人々を退転させる。幸福になるためには軽い宿業を受ける必要がある。

※かついで括られた箇所の正しい選択肢を選んで文章を完成して下さい。

私達の宿命は（生まれついた環境・過去世の自身の行為・神仏により決められた役割）によって形成されています。

その宿命は、（諸天善神の計らい・妙法の受持と実践・慈善事業等の社会貢献）によって転換できます。

過去世から積み重ねてきた宿業を今世において軽い報いを受けて滅すること

を（転重軽受・灰身滅智・因果応報）といいます。